



YouTube ではかりの取扱方法の動画紹介をしています。

https://youtu.be/60Mbu2whH_8

分銅の種類紹介

①板状分銅 板状の小質量(1mg ~ 500mg)の分銅です。	②円筒分銅 一般的に広く知られている形の分銅です。
③円盤分銅 取り扱いが容易で、複数積み重ねることができ、使い易い分銅です。	④増しおもり型分銅 吊り下げ式のかりの校正に使用する分銅です。ズレ防止の段・溝付で複数個積み重ねることができます。
⑤枕型分銅 握る部分があり、持ち運びが容易で積み重ねも簡単な実用的な分銅です。	⑥大型分銅 クレーンやフォークリフトなどでの取り扱いが楽な分銅です。

特殊な分銅

板状の微小質量分銅 板状の0.1mg ~ 0.8mgの微小質量分銅です。	ニュートン分銅 力の国際単位であるニュートン(N)に質量をあわせた分銅です。	環付き分銅、吊り分銅 吊り下げ用の環やフックを取り付けた特殊な用途で使用する分銅です。
--	--	---

国家標準や国際勧告等に準拠した分銅があります。

JIS マーク付き分銅 JIS 規格 (JIS B 7609 : 2008 分銅) に適合した分銅です。 JIS マーク付き分銅には、国際法定計量機関 (OIML) の勧告 (R111) にも準拠した「OIML 型円筒分銅」と従来から日本国内で一般的に使われている「基準分銅型円筒分銅」の2種類あります。	JIS マーク付 OIML 型円筒分銅	JIS マーク付 基準分銅型円筒分銅
OIML 型分銅 国際法定計量機関 (OIML) の勧告 (R111) に準拠した分銅です。 グローバル化する時代に適した分銅で、「円筒分銅」と「板状分銅」の2種類あります。	OIML 型円筒分銅	OIML 型板状分銅

分銅の取扱方法

分銅は、とてもデリケートなものです。

間違った取り扱いをすると、分銅に傷が付いたり、錆びてしまい質量が変わってしまいます。
お手持ちの分銅を、より長くお使いいただくために、分銅の取扱方法を紹介します。

分銅の取り扱いには、次の5つのポイントがあります。

- 1) 分銅のほこりや異物などのよごれをふき取る!
- 2) 分銅を素手で触れない!
- 3) 計量皿の上に非磁性のスペーサーを置く!
- 4) 滑らせない、ぶつけない!
- 5) 分銅は、はかりの設置室に十分放置してから使用する!

ポイント1：分銅のほこりや異物などのよごれをふき取る!

分銅に汚れ・異物・油脂や水分などが着いていないか確認し、付着していれば、シリコンクロスなどでふき取りましょう。

汚れがひどい場合は、アルコールなどの有機溶剤や蒸留水等を使用してふき取り、乾くまで使用しないようにしましょう。

過度な洗浄は、質量を変化させてしまう可能性がある為注意しましょう。

できれば、洗浄前後に分銅の質量を確認しましょう。

また、分銅は、専用の防湿保管庫に保管するか、専用ケースに入れて持ち運び、汚れが付着しないようにしましょう。



よごれをシリコンクロスなどでふき取る。
汚れがひどい場合は、アルコールなどの有機溶剤や蒸留水等を使用してふき取る。

専用の防湿保管庫に保管するか、専用ケースに入れて持ち運ぶ!



ポイント2：分銅を素手で触れない！

分銅を素手で触れると油脂や汗の塩分が付着して、錆び等による質量変化の原因になりますので、分銅には素手で触れないでください。

軽い分銅の場合は、分銅の傷がつかないように先端に樹脂やゴムカバーのついたピンセットを使用して持つようにしてください。

重い分銅は、手袋を使用して分銅を持つか、またはフォーク等を使用して持つようにしてください。

分銅を素手で触れない！



ピンセット、手袋またはグリップやフォーク等を使用する。

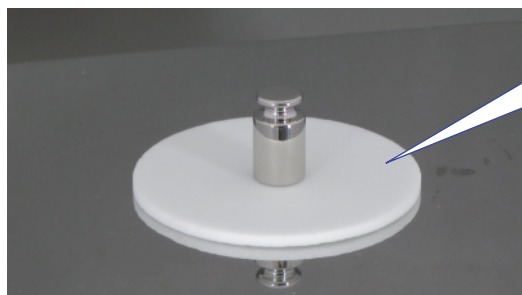


ポイント3：計量皿の上に非磁性のスペーサーを置く

磁性をおびる可能性のある分銅を使用する場合は、磁化の影響により重量表示が変わることがあります。

対策として、電子はかりの計量皿に非磁性のスペーサーを置いて、秤量皿から遠ざけ、磁化の影響を軽減します。

磁化の影響を無くす為、
非磁性のスペーサーを置く！



ポイント4：滑らせない、ぶつけない！

計量皿の上で分銅を滑らすと分銅の底面が磨り減る原因になります。

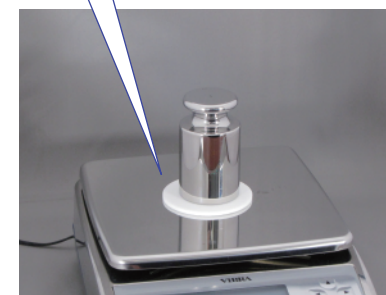
またぶつけると分銅の一部が欠けることがあるので、分銅は滑らしたり、硬いものにぶついたりしないでください。

計量皿の上に、やわらかい材質の非磁性のスペーサーを置くと分銅の磨り減り対策にもなります。

滑らせない、ぶつけない！



非磁性のスペーサーを置くと分銅の磨り減り対策にもなります



ポイント5：分銅は、はかりの設置室に十分放置してから使用する！

非常に高精度な電子はかりの点検・検査に分銅を使用する場合は、電子はかりが設置されている室と分銅の保管場所の温度に注意が必要です。

それぞれの温度が異なると、測定の際に対流が生じて数値が変化してしまう場合があるからです。

電子はかりの設置室と分銅の温度が同じになるよう、あらかじめ分銅を電子はかりの設置室に十分な時間(2～8時間)放置してください。

分銅を電子はかりの設置室に
十分な時間(2～8時間)
放置してからご使用する！

